

大田区地域福祉計画【平成31年度(令和元年度)～令和5年度】社会福祉協議会の取組実績

大田区地域福祉計画の冊子の41ページで示す社会福祉協議会の役割に対する実績です。

基本目標	社会福祉協議会の役割	取組実績(令和3年度)		
		事業名	概要	実績
1 つながりが生まれる地域をめざします。	ボランティア活動のマッチングと継続的な相談支援	■ボランティア活動受給調整	区民のボランティア活動の情報宣伝・登録・紹介等を行う。	①年間182件の需給調整 ②ボランティアの新規登録 ・個人登録:130人 ・団体登録:106団体
		■フードドライブ事業を活用した食料支援	一時的に経済的に生活困窮に陥る世帯に対し食料を提供するために、ご家庭や企業・団体の皆さんから、未利用の食料・食材を集める活動を実施する。	【社協への持ち込み】 ・総数:10,726点 ・寄付者数:591人 【地域との連携フードドライブイベント】 ●グランデュオ蒲田店と協働開催 ●特別出張所(4か所)と協働開催 ●自治会町会や商店会、企業の協力
	地域活動団体の立ち上げ支援・伴走支援	■地域福祉活動団体支援事業	幅広く地域福祉活動に取り組む民間団体を支援するため、相談助言や広報活動の支援、活動費を助成する。	①通年助成48団体 ②イベント助成6団体 ③トライアル(立ち上げ)助成5団体 ④集いの場助成94団体
	地域活動団体のネットワーク化	■助けあいプラットフォーム	多様化・複雑化する地域課題の解決のために様々な機関・団体が参加し、個ではできないより大きな力を発揮する課題解決のためのプラットフォームを設定する。 ※令和2年度は、コロナ禍の中で、オンラインを活用した試みを実施した。	蒲田西地区:開催回数 3回 参加人数 延72名
		■子ども食堂連絡会	連絡会を中心に、新たな子ども食堂の立ち上げ相談、ボランティア紹介、寄付食材の提供を行い、コロナ禍における子ども食堂の運営をサポートする。	・連絡会開催数:2回 ・こども食堂カフェ開催数:2回 ・新規登録団体:4団体(全32か所) ・大田区子ども食堂マップ(10,000部) ・新規団体の立ち上げ相談:10件

大田区地域福祉計画【平成31年度(令和元年度)～令和5年度】社会福祉協議会の取組実績

大田区地域福祉計画の冊子の41ページで示す社会福祉協議会の役割に対する実績です。

基本目標	社会福祉協議会の役割	取組実績(令和3年度)		
		事業名	概要	実績
2 つながりが機能する地域をめざします。	地域の力を活用した 個別支援の充実とアウトリーチ	■絆サポート(生活支援)	高齢者、産前産後、身体に障がいをお持ちの方へ、日常的な家事をサポートするボランティアを派遣する。	年間延べ9,545件利用
		■助っ人サービス(単発の困りごと支援)	地域のボランティアの方と、区民の方の生活上のちょっとした困りごとを助ける取組みである『助っ人サービス』を開始した。シニア男性の地域での活躍の場を広げる取組みにもなっている。	年間34名利用
		■ほほえみ訪問(高齢者の見守り活動)	地域のボランティアの方と、高齢者のお宅へ月2回、見守りの訪問を実施する。	年間53名利用
		■ほほえみごはん(子育て世帯への見守りと食の支援)	子育て世帯へ、月2回、食料の支援と家庭への見守り活動を行い、地域のボランティアの方を通じたアウトリーチを実施する。	年間49世帯
		■子どもたちの居場所づくり事業(のびのび事業/わくわくホーム事業)	子どもたちの居場所を、地域との協働により、展開する。 ①のびのび事業:小学校低学年の不登校児の地域での居場所の確保を目指し、食・学び・体験の機会の提供をする。 ②わくわくホーム:夏休み等の長期休暇の期間中の子どもたちの居場所を提供する。	①のびのび事業 (不登校児の居場所・月1回開催) ・実施回数:5回 ・参加者:19名 ②わくわくホーム (学校の長期休み中の居場所) ・実施回数:1回 ・参加者:8名
	地域福祉コーディネート機能の強化	■地域からの個別相談対応	地域福祉コーディネーターは、地域に出向き、個別の困りごとの相談や、地域活動者への活動への相談の受け止めを行い、適宜課題解決の支援を行う。	①個別の相談支援:1,843件 ②地域活動に対する相談支援:7,131件
		■地域福祉コーディネーター機能の体制強化	大田区の地域ささえあい強化推進員8名との連携強化し、定期的なエリア単位のチーム会議や地域での協働の動きを意識し、活動を展開。	①地域福祉コーディネーターの活動事例等をまとめた「活動報告書」を作成(2500部) ②地域福祉コーディネーター等実践報告会を開催。(参加者96名)
	地域福祉に携わる 人材の確保、定着、育成の側面支援	■おおた福祉カレッジ(福祉人材育成PJ)	社会福祉法人の共通課題である福祉人材の確保、育成、定着について、協議検討を行う。また、各法人にて実施する研修等に他法人職員も参加できるような仕組みを構築している。	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、おおた福祉ネットについて、全体会(1回)をオンラインにて実施。研修等による交流は困難であったため、福祉人材PJについては未実施。
		■ふくしのしごと市(就職相談と面接会)	福祉人材の確保について、大田区社会福祉法人協議会が共同して、福祉の就職相談面接会を実施する。	11月27日(土) 会場:池上会館 出展法人:13法人 来場者数:61名 採用者数:5名

大田区地域福祉計画【平成31年度(令和元年度)～令和5年度】社会福祉協議会の取組実績

大田区地域福祉計画の冊子の41ページで示す社会福祉協議会の役割に対する実績です。

基本目標	社会福祉協議会の役割	取組実績(令和3年度)		
		事業名	概要	実績
3 安心して生活できる地域を支えます。	大田区社会福祉法人協議会の活動の推進	■れいんぼう事業(子ども学習支援事業)	ひとり親家庭の児童・生徒を対象の学習等を通じた「生きる力」を習得を目的とした事業を実施している。	■連携している社会福祉法人 大洋社・池上長寿園・大田幸陽会・大田社協 ・延べ34名(れいんぼう大森) ・延べ149名(れいんぼう久が原)
		■小地域圏域単位(エリア単位)の活動	常設のフードパントリー事業の協働で運営する。	①JOBOTA(やまて福祉会) ②シニアステーション糀谷(有隣協会) ※令和4年度から無
	災害時の援助機能の充実	■災害ボランティアセンター機能の推進	センター開設訓練を地域との連携の中、実施する。	■田園調布特別出張所と連携 実施日:10月9日(参加者:33名) 実施場所:田園調布せせらぎ館 ■久が原特別出張所と連携 実施日:11月25日(参加者数:25名) 実施場所:久が原小学校・久が原会館
	福祉教育活動の支援	■家ボラの推進	令和2年度は、コロナ禍にて夏ボラの実施が行えない代わりに、新たなボランティア活動のカタチとして、お家でもできるボランティア略して「家ボラ」を提案する。	①あいちゃんのマスク(手作りマスク):482枚 ※年度途中で終了 ②手作り雑巾:264枚 ③あったカード:8枚 ④使用済切手の整理ボランティア:8人
		■福祉体験学習用器材、ユニバーサルスポーツ用具の貸出	令和2年度は、新たにユニバーサルスポーツ用具と講師派遣の新規事業を実施。スポーツを通じた福祉教育の推進にも取り組む。	①福祉体験学習用器材貸出件数 31団体 ②ユニバーサルスポーツ ・ボッチャ: 15団体 ・カーレット: 11団体